

1. 総論

管内経済は、回復している。

先行きについては、企業収益や雇用・所得環境の改善が続くなかで、設備投資が増加し、地方創生を含む各種政策効果に加え、北陸新幹線開業の効果が追い風となって、経済の好循環が持続し、着実に回復を続けていくことが期待される。

なお、海外景気の下振れなどが景気を下押しするリスクとなっているほか、人手不足に伴う企業活動への影響が懸念されることから、これらの動向に留意が必要である。

【総括判断】

前回 (27年7月判断)	今回 (27年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
回復している。	回復している。	⇒	個人消費は回復しており、 <u>北陸新幹線開業に伴う効果も、観光等を中心に一段と増している</u> 。生産は電子部品・デバイスや化学が高水準で推移するなど回復しており、企業収益・設備投資は増益・増加見通しとなっている。また、雇用情勢は着実に改善している。

【主要項目の判断】

項目	前回 (27年7月判断)	今回 (27年10月判断)	前回比較
個人消費	回復している。	回復している。	⇒
設備投資	27年度は増加見通し。	27年度は増加見通し。	⇒
住宅建設	回復しつつある。	回復しつつある。	⇒
公共事業	前年を下回っている。	前年を下回っている。	⇒
生産	回復している。	回復している。	⇒
企業収益	27年度は増益見通し。	27年度は増益見通し。	⇒
雇用情勢	着実に改善している。	着実に改善している。	⇒

(注)27年10月判断は、前回7月判断以降、10月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

2. 各論

個人消費：回復している。

百貨店・スーパー販売

高品質商品に動きがみられるなど飲食料品が増加しているほか、衣料品や高額品に動きがみられることなどから、回復している。北陸新幹線開業の効果がみられる。

コンビニエンスストア販売

カウンターフーズ等に動きがみられるほか、北陸新幹線開業効果により、新幹線駅や観光地付近等の店舗では客数が増加していることから、順調となっている。

ドラッグストア販売

品揃えの拡充により飲食料品等に動きがみられることから、順調となっている。

ホームセンター販売

レジャー用品等に動きがみられることから、堅調となっている。

家電量販店販売

白物家電等に動きがみられることから、持ち直している。

新車販売台数

小型乗用車は前年を上回っているものの、普通乗用車、軽乗用車は前年を下回っており、弱含んでいる。

主要観光地の来訪客数

北陸新幹線開業等の効果がみられることから、好調となっている。

主要温泉地の宿泊客数

北陸新幹線開業等の効果がみられることから、好調となっている。

旅行取扱実績

海外旅行で欧州方面等の動きが鈍いものの、国内旅行で東京方面を中心に好調となっていることから、順調となっている。

設備投資：27年度は増加見通しとなっている。（法人企業景気予測調査（27年7-9月期調査））
製造業、非製造業ともに増加見通しとなっている。

住宅建設：回復しつつある。

新設住宅着工戸数

回復しつつある。

公共事業：前年を下回っている。

前払金保証請負金額

前年を下回っている。

生産：回復している。

電子部品・デバイス

自動車関連向けで横ばいとなっているものの、スマートフォン向けで増加していることから、全体では高水準の生産を続けている。

化学

大宗を占める医薬品が、後発医薬品を中心に高水準の生産を続けている。

はん用・生産用・業務用機械

金属工作機械が横ばいとなっているほか、土木建設機械が減少していることなどから、全体では弱含んでいる。

繊維

婦人衣料向けが減少しているものの、自動車内装材向けが持ち直していることなどから、全体では横ばいとなっている。

金属製品

大宗を占めるアルミ建材が、住宅用、ビル用ともに持ち直しつつある。

企業収益：27年度は増益見通しとなっている。（法人企業景気予測調査（27年7-9月期調査））

製造業、非製造業ともに増益見通しとなっている。規模別では、大企業、中堅企業、中小企業ともに増益見通しとなっている。

企業の景況感：全産業では「上昇」超となっている。（法人企業景気予測調査（27年7-9月期調査））

現状判断（27年7-9月期）は、製造業、非製造業ともに「上昇」超となっている。

なお、先行きは、全産業では27年10-12月期、28年1-3月期ともに「上昇」超となる見通しとなっている。

雇用情勢：着実に改善している。一部では、人手不足感が強まっている。

有効求人倍率（季節調整値）

上昇している。

新規求人数

おおむね前年並みとなっている。

新規求職者数

前年を下回っている。

雇用保険受給者実人員

前年を下回っている。

金融機関の貸出金：前年を上回っている。

企業倒産：件数、負債総額ともに前年を下回っている。

消費者物価（金沢市、生鮮食品を除く総合）：前年並みとなっている。

3. 各県の経済情勢（総括判断）

	前回 (27年7月判断)	今回 (27年10月判断)	前回 比較	総括判断の要点
管内	回復している。	回復している。	→	個人消費は回復しており、 <u>北陸新幹線開業に伴う効果も、観光等を中心に一段と増している。</u> 生産は電子部品・デバイスや化学が高水準で推移するなど回復しており、企業収益・設備投資は増益・増加見通しとなっている。また、雇用情勢は着実に改善している。
石川県	回復している。	回復している。	→	個人消費は回復しており、 <u>北陸新幹線開業に伴う効果も、観光等を中心に一段と増している。</u> また、生産は着実に回復しているほか、雇用情勢は着実に改善している。
富山県	総じて回復している。	総じて回復している。	→	個人消費は回復しており、 <u>北陸新幹線開業に伴う効果も、観光等を中心に一段と増している。</u> また、生産は緩やかに回復しつつあるほか、雇用情勢は着実に改善している。
福井県	緩やかに回復している。	緩やかに回復している。	→	個人消費は緩やかに回復しているほか、生産は回復しており、雇用情勢は着実に改善している。

(注) 27年10月判断は、前回7月判断以降、10月に入ってからの足下の状況までを含めた期間で判断している。

○ 今回の管内経済情勢報告に関する地域における生の声

項目	生の声	関係先
個人消費	○気温が低めに推移していることから、秋物衣料に動きがみられる。また、インバウンド客の増加により化粧品等に動きがみられ、免税手続き件数は前年の数倍に増加している。	百貨店
	○引き続き、国産食材などの高品質商品に動きがみられるほか、青果等の相場高により、客単価が上昇している。	スーパー：大企業
	○カウンターフーズや惣菜等は引き続き好調であるほか、足下では地元食材を使用した期間限定商品の売行きが良い。また、 <u>北陸新幹線開業効果により、新幹線駅や観光地付近の店舗の売上げが増加している。</u>	コンビニ：大企業
	○7-8月は気温が高めに推移したことから、エアコンや冷蔵庫の売行きが良いほか、高機能の電子レンジや炊飯器等の調理家電に動きがみられる。	家電量販店： 大企業
	○高価格帯の車は堅調に推移しており、マインドの低下は感じられないが、軽乗用車を中心とした落ち込みはまだ続くと思われる。	自動車販売店協会
生産	○7-9月期は、スマートフォン向けが前年比で20%増。生産が最盛期を迎え、土日も含めてフル稼働が続いている。	電子部品・デバイス：中堅企業
	○7-9月期は前年比で約1割伸長し、工場はフル操業。安定供給のため、製品在庫を積み上げたいところだが、生産能力が限界で対応できていない。	化学：中堅企業
	○受注残高は高水準にあるものの、足下では自動車関連について、海外経済の影響等から受注に波が出始めているなど、先行きに不透明感がある。	はん用・生産用・業務用機械： 大企業
雇用情勢	○製造業の求人が高水準にある。また、 <u>北陸新幹線開業の影響が、卸・小売業、宿泊業・飲食サービス業を中心に全県的に表れている。</u>	労働局
	○受注が好調となっているなか、人手不足により、工場の稼働率を上げることができず、自社工場だけでは対応できないことから、外注に出している。	はん用・生産用・業務用機械： 大企業
	○人手不足から、稼働率を上げることができないため、素泊まりプランを拡充するなど稼働率を上げるための対策をとっているところもある。	温泉地観光協会
	○大型商業施設やコールセンター等との競合により、賃金を上げても人が集まらない。人手不足が解消されれば売上げはもっと伸ばすことができると思われる。	スーパー：大企業